

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	花と緑の商品知識		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・グリーンコーディネートコース フラワーコーディネートコース・造園コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前期	時間数	30	単位数	1
授業概要	花木、洋ラン、観葉植物等の栽培管理や販売に関する知識の学習。	到達目標	小売りの現場で求められる、お客様からの基礎的な質問等に答えられる知識の習得。		
担当教員	大久保 茂徳				
実務経験と授業との関わり	園芸会社での勤務経験、大型ガーデンセンターでの講習会講師の経験があり、植物に関する商品知識が豊富である。よって、小売りの現場で顧客へ説明することを想定し、実践的に指導することができる。				
テキスト・教材	鉢花ハンディ事典 春～夏編（NHK出版）、鉢花ハンディ事典 秋～早春編（NHK出版）				
成績評価方法	毎回の授業で扱う植物それぞれについて、フォーマットにまとめたものによって評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	花木類	春の花木	
2	花木類	春の花木	
3	花木類	初夏の花木	
4	花木類	家庭果樹	
5	温室植物	洋ラン類	
6	温室植物	洋ラン類	
7	温室植物	観葉植物	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 園芸実習	欠席者に対するペナルティ 欠席時のフォーマットが未提出の場合には減点となる。また、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。		備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	園芸実習		履修区分	必修	選択
受講対象	2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前期	時間数	30	単位数	1
授業概要	植物栽培についての興味と関心を高めるとともに、適切な管理方法を学習する。	到達目標	圃場での時期に応じた管理方法を習得する。		
担当教員	萩原 文雄				
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事し、幅広い植物の生産知識を持つ。よってコース問わず最低限知っておくべき基本的な栽培知識、技術を指導することができる。				
テキスト・教材					
成績評価方法	出席状況、授業態度を総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	圃場管理	各コースでの植物管理作業	
2	圃場管理	圃場での管理作業（花がら摘みや追肥等）	
3	圃場管理	各コースごとでの植物管理作業	
4	圃場管理	圃場での管理作業（除草、花がら摘みや追肥等）	
5	圃場管理	圃場での管理作業（花がら摘みや追肥等）	
6	圃場管理	圃場での管理作業（除草等）	
7	圃場管理	圃場での管理作業（花がら摘みや追肥等）	
8	まとめ	花壇メンテナンス、圃場管理作業	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	花き生産技術 I		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	60	単位数	2
授業概要	1、2年草の基本的な性質を理解し各種の栽培方法を学ぶ。季節ごとの栽培環境を理解させる。	到達目標	播種から開花までの応用的な栽培方法及び管理方法を習得する。さらに利用方法も習得する。		
担当教員	萩原 文雄				
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。				
テキスト・教材	関連資料の配布				
成績評価方法	授業内で実施した実習に関する実技試験及び1、2年草に関するレポートをまとめる。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ実技試験及びレポートの得点が60点以上で単位認定する。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	繁殖	発芽率の向上方法	
2	繁殖	成苗率の向上方法	
3	繁殖	春、夏期実生繁殖	
4	繁殖	秋、冬期実生繁殖	
5	生産・管理・土壌	培養土作成・鉢上げ・灌水	
6	生産・管理・土壌	培養土作成・鉢上げ・灌水	
7	生産・管理	スペーシング・摘心・切り戻し	
8	生産・管理	スペーシング・摘心・切り戻し	
9	病理害虫	農薬の調整及び・施用方法	
10	肥料	元肥・追肥の種類・及び施用方法	
11	生産・管理	植物ホルモン剤の種類及び施用方法	
12	生産・管理	日長処理について	
13	利用	花壇作成	
14	利用	寄せ植え作成	
15	総括・テスト	復習および実技試験	
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	花き生産技術Ⅱ		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	60		単位数 2
授業概要	宿根草、花木、球根類の応用的な栽培方法を学ぶ。 球根の温度処理、春化、休眠打破の方法を学ぶ。	到達目標	各類の応用的な栽培方法を習得し、様々な問題に対して適切な処置ができることを目指す。		
担当教員	萩原 文雄				
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。				
テキスト・教材	関連資料の配布				
成績評価方法	授業内で実施した実習に関する実技試験及び多年草に関する筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ実技試験及び筆記試験の得点が60点以上で単位認定する。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	繁殖	宿根草の実生繁殖	
2	繁殖	宿根草の栄養繁殖	
3	繁殖	栄養繁殖（春植え球根）	
4	繁殖	栄養繁殖（秋植え球根）	
5	生産・管理・土壌	球根用培養土作成・定植方法	
6	病理害虫	球根用殺菌剤の調整及び施用方法	
7	生産・管理・農薬	鉢物栽培・ホルモン剤の利用	
8	生産・管理・土壌	培養土作成・鉢上げ・灌水	
9	生産・管理	鉢物栽培・出荷技術	
10	生産・管理・土壌	切花栽培における土壌改良など	
11	生産・管理	切花栽培・出荷技術	
12	病理害虫	病害虫の種類及び防除方法	
13	生産・管理・繁殖	花木類の栽培及び繁殖方法	
14	利用	性質に合わせた利用方法	
15	総括・テスト	復習および筆記試験	
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	花き生産技術Ⅲ		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	45	単位数	1.5
授業概要	ハーブ、観葉、多肉、ラン類についての生産技術を学ぶ。	到達目標	原産地や形態、生理生態の違いを理解し、それぞれの植物に適する生産技術及び出荷技術を身につける。		
担当教員	萩原 文雄				
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。				
テキスト・教材	関連資料の配布				
成績評価方法	種子繁殖、栄養繁殖の手法について実技試験を行い評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ実技試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	薬用植物の生産技術①	薬用植物の要点、実生、挿し芽	
2	薬用植物の生産技術②	草本類の株分け、樹木類の繁殖	
3	観葉植物の生産技術①	葉挿し、茎挿し	
4	観葉植物の生産技術②	株分け、取り木	
5	多肉植物の生産技術①	葉挿し、茎挿し	
6	多肉植物の生産技術②	株分け、実生	
7	ラン科植物の生産技術①	ラン科植物の要点	
8	ラン科植物の生産技術②	自生、着生ランについて	
9	ラン科植物の生産技術③	株分け	
10	ラン科植物の生産技術④	実生、メリクロンについて	
11	ラン科植物の生産技術⑤	品種登録、出荷技術	
12	総括・テスト	復習および実技試験	
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	商品制作		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	30	単位数	1
授業概要	各種イベントにおける販売実習を通じて商品を作成する。これらは計画、仕入、作成、単価計算、売上等の一連の販売業務について学ぶ。	到達目標	トレンドや地域性を理解した上での商品作成と経営的側面について理解する。		
担当教員	萩原 文雄				
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。				
テキスト・教材	関連資料の配布				
成績評価方法	販売実習に関するレポート提出	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつレポートの得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	園芸商品の種類と役割	野外、室内用商品について	
2	文花祭商品作成①	販売商品の作成計画、POP作成	
3	文花祭商品作成②	販売用花苗、鉢物作成	
4	販売時の注意点	販売手順、管理方法	
5	商工祭用商品作成①	販売商品の作成計画	
6	商工祭用商品作成②	販売用寄せ植え作成	
7	商工祭用商品作成③	販売用花苗、鉢物作成	
8	総括	復習、経費計算、まとめ	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	生産流通		履修区分	必修	選択	
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	園芸業界の川上から川下産業に至るまでの販売経路を要約し、その中身を解説。出荷した時点をスタートとして学んでいく。	到達目標	園芸生産者の立場になり、市場へ出荷した自分の商品がどのように流通し、販売されていくのかを理解する。			
担当教員	萩原 文雄					
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。					
テキスト・教材						
成績評価方法	試験期間中に全授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	園芸生産者	出荷の方法	
2	直売方法	直売所、通信販売の活用	
3	集荷業者	集荷のメリット、デメリット	
4	市場①	搬入、受付方法	
5	市場②	セリ、配送方法	
6	仲卸業者	注文、引荷の活用	
7	園芸店、ガーデンセンター	仕入、品出し、販売	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	施設管理		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	60	単位数	2
授業概要	ガラス温室、硬質フィルムハウス、ビニールパイプハウスなどの維持管理方法を学ぶ。	到達目標	季節ごとの管理方法を習得する。また不測の事態に対応できる知識、技術も習得する。		
担当教員	萩原 文雄				
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。				
テキスト・教材	関連資料の配布				
成績評価方法	授業に対する取り組み方及び筆記試験を実施し総合的に判断する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ筆記試験の得点が60点以上で単位認定する。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	温室管理	被覆資材の種類及び用途	
2	温室管理	被覆資材の施用方法	
3	温室管理	内張り資材の種類及び用途	
4	温室管理	内張り資材の施用方法	
5	温室管理	遮光用資材の種類及び用途	
6	温室管理	遮光用資材の施用方法	
7	温室管理	暖房、送風機の管理、灌水システムの維持管理	
8	総括・テスト	復習および筆記試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	花きの利用		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次後期	時間数	30	単位数	1
授業概要	切り花・ドライフラワー・プリザーブドフラワーを利用したインテリアデコレーションの技術を習得する。	到達目標	素材の特性を知り、テーマにもとづいた作品を完成させる。		
担当教員	伊達 啓子				
実務経験と授業との関わり	イギリスのフラワースクールでフラワーデザインやヨーロッパの園芸文化について習得し、フラワー関連の雑誌では園芸文化についての連載を持つなど非常にこの分野の造詣が深いことから、文化的背景をもとにしたフラワーデザインの指導ができる。				
テキスト・教材	プリント、花材、資材				
成績評価方法	毎回の授業を記録したレポートによって評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつレポートの得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	基本のフラワーアレンジ	オールラウンドなイギリス風 個性的なフランス風	
2	収穫のスワッグ	ドライ素材を使ったスワッグ	
3	ハロウィーンアレンジ	行事のフラワーアレンジ	
4	クリスマスリース	グリーンリースの作り方	
5	バレンタインハート	バレンタインの商品展開（ドライと生花）	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席した授業分のレポート提出点が減点となる。また、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	販売技術		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	30	単位数	1
授業概要	販売の意義を学び、売するための技術（見せ方、接客、商品選定方、POP等）を習得する。また購買年齢層、売れ筋商品などを分析し販売の効率化について学ぶ。	到達目標	販売店内のデザインを各自ができるように、目標を設定したのち、その販売促進要素を理解する。		
担当教員	萩原 文雄				
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。				
テキスト・教材	関連資料の配布				
成績評価方法	販売店の売り場をデザインしたレポートを作成し評価する。		出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつレポート提出で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	植物の販売方法	過去から現在への展望を理解する	
2	宣伝の意義	広告、市場調査	
3	売り場づくり①	導線計画、陳列方法	
4	売り場づくり②	POPの重要性、寄せ植えの効果	
5	ターゲットを知る	商品知識の向上、POSシステム	
6	園芸店に学ぶ①	有名な園芸店の紹介と販売促進について	
7	園芸店に学ぶ②	実際の園芸店を見学し学習したポイントをおさえる	
8	レポート作成	復習およびレポート作成	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	花き育種・繁殖		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	60		単位数 2
授業概要	実際の育種・繁殖の手法を講義と実習を通して学習する。ペチュニアなどを使い実際に交配を行う。	到達目標	育種の基本である重複受精について深め、それに直面する問題や糸口を理解する。繁殖についての正しい手法を理解する。また育種に対する興味を深める。		
担当教員	萩原 文雄、高山 晃				
実務経験と授業との関わり	（萩原）鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。（高山）花き生産に従事するかたわら、土壤医の資格をもち、「首都圏土壤医の会」の会長も務める。よって、土壤肥料そのものに精通しているだけでなく、植物を生産する上での実用的な知識を指導することができる。				
テキスト・教材	関連資料の配布				
成績評価方法	試験期間中に全授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	花き育種・繁殖の概論	花きの繁殖および育種の概論について講義	
2	ペチュニアの育種の現状、交配実習	ペチュニアの育種について講義、交配実習	
3	ペチュニアの形質と遺伝、交配実習	ペチュニアの形質と遺伝について講義、交配実習	
4	ペチュニアの栄養繁殖実習	ペチュニアの挿し木の実習	
5	種苗法	種苗法の概要と品種登録について講義	
6	育種の基礎①	重複受精について	
7	育種の基礎②	品種改良の要点と実例に触れる	
8	種子繁殖	種子とは？、自殖・他殖	
9	種子繁殖	雑種強勢、雑種第一代種子、発芽とは？	
10	栄養繁殖	器官別の繁殖方法と意義	
11	栄養繁殖	繁殖に関わる環境条件	
12	繁殖実践	1年草、多年草の種子繁殖	
13	繁殖実践	球根植物の栄養繁殖	
14	繁殖実践	ラン類の株分け	
15	総括・テスト	復習および筆記試験	
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	生育開花調節概論		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	15	単位数	0.5
授業概要	開花をコントロールすることは生産の安定供給と効率性を高める技術の一つであり、その手法を講義と実習で学ぶ。	到達目標	開花の環境要因を理解し、開花調節のための処理と、それを補う生長調節物質の種類と使用方法について理解する。		
担当教員	村井 千里、萩原 文雄				
実務経験と授業との関わり	(村井) 元埼玉県園芸試験場場長、専門技術員の経歴をもち、特に球根、宿根草の生育開花、ホルモン処理においては豊富な知識、経験を持つ。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。(萩原) 鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。				
テキスト・教材	関連資料の配布				
成績評価方法	試験期間中に全授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	生長と開花①	花きの生育・開花と環境要因	
2	生長と開花②	栄養生長と生殖生長	
3	生長と開花③	生殖生長と環境要因	
4	近代的花卉生産と開花調節	開花促成・抑制、DIF	
5	開花調節の手順①	日長処理による開花調節	
6	開花調節の手順②	温度処理による開花調節	
7	開花調節の手順③	生長調節物質による開花調節	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	花き生育技術概論		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	30	単位数	1
授業概要	生育をコントロールすることは生産の安定供給と効率性を高める技術の一つであり、その手法を講義と実習で学ぶ。	到達目標	生育の環境要因を理解し、生育調節のための処理と、それを補う生長調節物質の種類と使用方法について理解する。		
担当教員	萩原 文雄				
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。				
テキスト・教材	関連資料の配布				
成績評価方法	最終回に全授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験を行う。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	生育調節①	温周性を利用した生育調節	
2	生育調節②	根域温度、整枝と生育の関係	
3	生育と養水分①	植物の給水と土壌のポテンシャル	
4	生育と養水分②	土壌の物理性と科学性	
5	生育と養水分③	植物の栄養と肥料	
6	生育と植物ホルモン	植物ホルモン剤の概要および利用方法	
7	生育と環境調節①	温室の種類と内部構造	
8	生育と環境調節②	光環境の調節	
9	生育と環境調節③	施設内気温の調節、CO ₂ 施用	
10	生育と培養土①	培養土の特質	
11	生育と培養土②	根圏環境と生育	
12	生育と培養土③	給水方式と培養土	
13	生育と肥料①	養分吸収特性	
14	生育と肥料②	施肥設計	
15	総括・筆記試験		
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	農業機械		履修区分	必修	選択	
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	30	単位数	1	
授業概要	トラクター、動噴などの構造及び安全な使用、操作方法を学ぶ。	到達目標	農業機械の構造を理解し安全に操作できる			
担当教員	萩原 文雄					
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。					
テキスト・教材	農林水産省農業安全に関する資料の配布					
成績評価方法	授業内で実習した農業機械の学科及び運転操作実技試験を行う	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ学科、実技試験の得点が60点以上で単位認定する			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	トラクターについて	法規、安全衛生、構造について	
2	トラクターについて	操作方法（走行）	
3	トラクターについて	操作方法（耕運）	
4	トラクターについて	点検整備	
5	動力噴霧器について	法規、安全衛生、構造について	
6	動力噴霧器について	操作方法及び点検整備	
7	管理機について	法規、安全衛生、構造、操作方法、点検整備	
8	代表的な農業機械	最新農業機械の現状（メーカー見学等）	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	ビジネスマネジメント		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習
開講時期	2年次後期	時間数	30	単位数	1
授業概要	リテールマーケティング（販売士）の授業を通して経営戦略、経営計画の設定・実行・統制を学習する。	到達目標	リテールマーケティング（販売士）検定3級の合格できるような知識を習得する。経営戦略、経営計画の重要性を理解する。		
担当教員	内村 敬子				
実務経験と授業との関わり	アパレル業界の勤務経験だけでなく、自身でも小売業に対するコンサルティングを行うなど小売業に対する造詣が深く、検定の指導経験もある。よって経験からの小売業のポイントを押さえながら指導することができる。				
テキスト・教材	テキスト				
成績評価方法	課題と模擬試験の点数で評価する	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	ガイダンス	学習指導など	
2	検定受験指導	販売・経営管理	
3	検定受験指導	小売業の種類、ストアオペレーション	
4	検定受験指導	小売業の種類、マーチャンダイジング	
5	検定受験指導	小売業の種類、マーチャンダイジング	
6	検定受験指導	マーチャンダイジング	
7	検定受験指導	マーチャンダイジング、マーケティング	
8	検定受験指導	マーケティング、総合演習	
9	検定受験指導	総合演習、模擬試験	
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	園芸療法・福祉概論		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習 見学
開講時期	2年次前期	時間数	15	単位数	0.5
授業概要	園芸療法とは何か、福祉施設における園芸療法の取組みを講義と実習を体験しながら学ぶ。	到達目標	福祉の一部である園芸療法の目的、方法、注意点、効果について理解する。		
担当教員	伊藤 弘充				
実務経験と授業との関わり	植物生産者での経験と日本育種学会発表や、園芸装飾技能士1級ならびに職業訓練指導員免許を所持することから、実際の現場に即した内容を指導することができる。				
テキスト・教材	関連資料の配布				
成績評価方法	福祉施設での実習レポートを提出する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつレポートの得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	園芸療法・福祉とは①	園芸療法の概要	
2	実習①	植物の準備	
3	実習②	道具類の準備	
4	実習③	基礎知識、入居者への注意点など	
5	実習④	福祉施設における植栽実習	
6	実習⑤	福祉施設における植栽実習	
7	実習⑥	福祉施設における植栽実習	
8	実習⑦	福祉施設における植栽実習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	農業簿記		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース・野菜生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習
開講時期	2年次後期	時間数	30	単位数	1
授業概要	農業簿記検定3級の受験、合格を目指す。	到達目標	農業簿記検定3級に合格できるぐらいの知識を身につける。		
担当教員	非常勤講師				
実務経験と授業との関わり	会計事務所に勤務し、実務経験も豊富であることから、実務に即した指導ができる。				
テキスト・教材	農業簿記検定3級教科書（大原出版）、農業簿記検定3級問題集（大原出版）、電卓				
成績評価方法	最終回に行う筆記試験と出席状況によって総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	農業簿記検定3級受験対策	問題演習・解説	
2	農業簿記検定3級受験対策	問題演習・解説	
3	農業簿記検定3級受験対策	問題演習・解説	
4	農業簿記検定3級受験対策	問題演習・解説	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	花き輸出入概論		履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習
開講時期	2年次前・後期	時間数	30	単位数	1
授業概要	花きの輸出入の現状とそれに関わる用語、英語を学習し、模擬的に輸出入演習を行う。	到達目標	花き輸出入に関わる現状や専門用語を理解する。		
担当教員	海下 展也				
実務経験と授業との関わり	長年、花き輸入業務に携わり、海外での花き流通にも精通している。よって実際の業務をふまえての実践的な指導ができる。				
テキスト・教材	プリント等				
成績評価方法	演習への取り組み姿勢や、プレゼンで総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	日本と海外の花き業界の現状	世界と日本の花き業界の現場と傾向	
2	輸出入の現状	海外との輸出入の現状	
3	輸出入における鮮度保持	最新花き等の鮮度保持技術	
4	輸出入の知識	輸出入に関する知識	
5	輸出入の演習	翻訳機能を活用して模擬的に演習	
6	輸出入とマーケティング	花き輸出入を可能にするマーケティング	
7	まとめ	自分でやってみたい花き輸出入のプレゼン	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	校外見学			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	日本で有数の生産法人や生産農家を見学し、その経営、栽培方法等を確認する。	到達目標	最新の品種、生産、経営方法を理解し今後の授業に活かす。			
担当教員	萩原 文雄					
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。					
テキスト・教材	見学先リーフレット、デジカメ					
成績評価方法	見学先の概要、着目点を写真を添えてレポートとしてまとめる。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつレポートの得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	展覧会見学	最新品種の特徴	
2	展覧会見学	受賞作品の特徴	
3	生産者見学	花苗、鉢物生産の現状	
4	生産者見学	切花生産の現状	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	インターンシップ			履修区分	必修	選択
受講対象	2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前期または後期	時間数	60		単位数	2
授業概要	外部企業において実際に現場を経験し、自身の現在の実力を理解するとともに企業担当者からも評価してもらうことで、今後の学習目標を定める。また、就職活動においても役立つ。	到達目標	自分の希望している企業（職種）での業務において、必要な知識と技術を理解するとともに、今後の学習目標を定める。			
担当教員	外部企業					
実務経験と授業との関わり						
テキスト・教材						
成績評価方法	考課表および実習報告書にもとづいて総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	企業研修	6～12日間程度外部企業で研修を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	卒業研究		履修区分	必修	選択	
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	240	単位数	8	
授業概要	研究の背景、課題のとらえ方、試験区の設定、栽培、分析、論文作成、発表等を学習する。	到達目標	目的に応じた栽培管理とまとめ、分析、論文の作成ができる。ワード、エクセル、パワーポイントが使える。			
担当教員	湯本 達夫					
実務経験と授業との関わり	県農業大学校教授及び農業改良普及員として学生や若手農業後継者の論文作成指導を行ってきた。これらの経験を活かし、課題設定から課題解決まで総合的な指導が可能である。					
テキスト・教材						
成績評価方法	研究への取り組み姿勢と卒業研究の完成度を総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	卒業研究	テーマ決定	
2	卒業研究	手法の検討	
3	卒業研究	試験設計	
4	卒業研究	試験設計	
5	卒業研究	調査・観察	
6	卒業研究	調査・観察	
7	卒業研究	調査・観察	
8	卒業研究	調査・観察	
9	卒業研究	調査・観察	
10	卒業研究	調査・観察	
11	卒業研究	調査・観察	
12	卒業研究	調査・観察	
13	卒業研究	調査・観察	
14	卒業研究	調査・観察	
15	卒業研究	調査・観察	
16	卒業研究	データまとめ	
17	卒業研究	データまとめ	
18	卒業研究	データまとめ	
19	卒業研究	データまとめ	
20	卒業研究	論文まとめ	
21	卒業研究	論文まとめ	
22	卒業研究	論文まとめ	
23	卒業研究	発表会準備	
24	卒業研究	発表会準備	
25	卒業研究	発表会準備	
26	卒業研究	本文仕上	
27	卒業研究	本文仕上	
28	卒業研究	発表会	
29	卒業研究	卒展準備	
30	卒業研究	卒展準備	
他教科との関連	欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。		備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	校外研修			履修区分	必修	選択
受講対象	2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前期または後期	時間数	60		単位数	2
授業概要	外部企業もしくは海外研修など、校外で研修（学習）することで、見聞を広めたり、就職活動や今後の学習目標を定めるための材料とする。	到達目標	自分の希望している企業（職種）での業務において、必要な知識と技術を理解するとともに、今後の学習目標を定める。海外研修では日本と異なる文化に触れ、見聞を広める。			
担当教員	外部企業等					
実務経験と授業との関わり						
テキスト・教材						
成績評価方法	企業での研修の場合には考課表および実習報告書にもとづいて総合的に評価する。海外等での研修の場合にはレポートによって評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	校外研修	6～12日間程度校外（企業、海外等）で研修を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	管理実習			履修区分	必修	選択
受講対象	花きコース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	60		単位数	2
授業概要	農場の管理を通して植物の適正な管理方法について学ぶ。	到達目標	様々な植物に対する管理方法を身に付ける。			
担当教員	萩原 文雄					
実務経験と授業との関わり	鉢花、花壇苗、洋ラン、切り花などの花き生産に20年以上従事していた。よって、実際の現場に即した内容を指導することができる。					
テキスト・教材						
成績評価方法	出席状況、実習態度を総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	農場等の管理実習	長期休業期間中に校内で管理実習を行う	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席時数分は他の日程で代講する。出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考

2020年度 シラバス（授業細目表）

科目名	校内行事			履修区分	必修	選択
受講対象	花き生産コース 2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前・後期	時間数	120		単位数	4
授業概要	様々な校外行事に参加し、主体性、協調性、作業の計画性など、就職してからも活かせるような知識や技術を身につける。	到達目標	様々な校内行事を通して、主体性、協調性、計画性などを身につける。			
担当教員	萩原 文雄					
実務経験と授業との関わり						
テキスト・教材						
成績評価方法	出席状況や各行事への取り組む姿勢、レポート等を総合的に評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	新年度オリエンテーション	ガイダンス、健康診断、国家検定申込み	
2	新年度オリエンテーション	防火・防災訓練	
3	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
4	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
5	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
6	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
7	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
8	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
9	文化祭準備	文化祭に向けた準備	
10	文化祭	展示／販売／体験教室等	
11	文化祭	展示／販売／体験教室等	
12	文化祭 片付け	文化祭の片付け	
13	卒業・進級作品展準備	展示等の準備	
14	卒業・進級作品展	展示等	
15	卒業・進級作品展 片付け	卒業・進級作品展の片付け	
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 欠席時数分は他の日程で代講する。出席時数が3分の2に満たない場合は補講となる。	備考